

イヴの庭園

懐かしい光に
のぼした手のひら
いつかの胸のぬくもり

この花は まだ咲かぬと
きめてここにいるの

私をひらく鍵は
あなたの心にある
季節が ながされても
忘れかけた 夢のなかで
いつでもふたりで…

ちいさな巣箱に
想いをあずけて
さえずる鳥たちの唄

この声は まだ泣かぬと
かなしみにふれても

私はこの場所から
あなたを想っている
ふたりが 眠れるまで
永久に続く 夜のむこう
どこかで 微笑って…

暗闇に置き去りの
心だけすくいあげて
腕のなかへ

私をひらく鍵は
あなたの心にある
季節が ながされても
忘れかけた 夢のなかで
いつでもふたりで…

ケモノにつき

山からケモノが
とおくで鳴いてる
おおきなからだで 空高く

森をこえ 丘をこえて
ともる星 月の下
やみの向こう

ケモノの 王国は
ひとには 見えないセカイ
誰にも そう ヒミツの国
すぐそこで こっち見てる
じっとずっと こっち見てる
足あとだけ のこして

山からケモノが
みんなで鳴いてる
おおきな瞳を きらめかせ

風をよび 夜をこえて
ねむる街 窓の下
そこにいるよ

ケモノの 王国は
ひとには 見えないセカイ
誰にも そう ヒミツの国
いつまでも こっち見てる
じっとずっと こっち見てる
ふり向いたら もういない

目があったら
きとおどろく
気になっても
すぐにげだしてしまうけど
そう ケモノも ぼくも
おんなじこと

ケモノの 王国は
ひとには 見えないセカイ
誰にも そう ヒミツの国
いつまでも こっち見てる
じっとずっと こっち見てる
ふり向いたら もういない

「イヴの庭園」 「ケモノにつき」

Vocal YUINA

Lyrics YUINA

Composition/Arrangement SADOUSUKI

©2022 _blank